

# 来週の「売り物記事」はこれ



2018年8月3日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## 「反骨」を受け継ぐ

若松孝二監督の青春、弟子たちが映画化

5日(日)



若松孝二監督＝写真＝は独立プロを運営しながら、約50年間にわたって反権力の映画を作り続けてきました。約6年前に交通事故で急逝しましたが、このほど、若き日のその活躍を描いた映画「止められるか、俺たちを」が完成しました。製作したのは、彼の「志」を受け継いだ愛弟子たちです。鬼才の波乱の人生をたどりつつ、なぜ、この時代に若松監督の映画を作ろうとしたのか——に迫ります。



筆者は文化事業部の鈴木隆記者です。

## 100回目の「夏の甲子園」 全国高校野球選手権大会

スポーツ面など 5日(日)から17日間

「夏の甲子園」こと全国高校野球選手権大会(日本高校野球連盟、朝日新聞社主催、毎日新聞社後援、阪神甲子園球場特別協力)が5日に開幕します。

第100回の記念大会となる今回は、例年より7校多い56校が全国から出場。過去の大会で活躍した元球児による「レジェンド始球式」も連日開催されます。

史上初となる2度目の春夏連覇を狙う大阪桐蔭、大会2連覇を狙う北埼玉・花咲徳栄、今春センバツ準優勝の智弁和歌山など、全国の地方大会を勝ち抜いた強豪が「深紅の大優勝旗」を目指します。また今大会は酷暑への対策も大きなテーマとなりそう。

球児たちの熱い戦いを現地から密着取材でお届けします。

## それホント? 「ノケジョ」農業系学部が続々

サラダぼうる面 6日(月)

大学の農業系学部を志望する女子が増えています。文部科学省によると、女子の割合は2007年度の40%から17年度には46%にまで伸びたそうです。

「ノケジョ(農業系女子)」という言葉も生まれました。ある学生は病害虫「線虫」の研究に打ち込み、別の学生は授業で農業人口の減少を知ったのをきっかけに進学しました。

パイオニア精神あふれる姿を追います。

## はたらく 家事支援する外国人女性たち

くらしナビ面 6日(月)

政府の国家戦略特区制度で、永住権を持たない外国人による家事支援サービスが解禁され、外国人の「お手伝いさん」によるサービスが広がりを見せています。

国内の人手不足を補うのが目的で、子育てをしながら働く女性や共働き世帯には「助け舟」になっているようです。そこで実際に、記者がフィリピン人女性に家事を依頼してみました。その一部始終をお伝えします。

## 熱気半端ない！ 縄文

夕刊特集ワイド 6日(月)

熱い！ 外気温ではなく「縄文時代」のことです。土偶の形をしたクッションや、土器の文様を生かした文房具といった身の回りの品々が登場していますし、書店では特設コーナーが設けられています。

なぜ、今を生きる私たちは縄文に熱くなるのでしょうか？ 「縄文ブーム」の現場を記者が探索しました。

## 国立大の格差拡大 東大独り勝ち

科学面 9日(木)

衰退しつつある日本の科学技術の現状を報告する連載「幻の科学技術立国」第2部3回目は、2004年に法人化された国立大の間で格差が広がっている中、周到な準備としたたかな戦略で独り勝ち状態になっている東京大学にスポットを当て、大変革を予期した当時の執行部がどう動いたのかを検証します。

ただ、国内では敵なしの東大ですが、世界やアジアの中では存在感を失い始めています。

## 改正健康増進法が成立 受動喫煙対策のあり方は

オピニオン面 10日(金)

受動喫煙対策を強化するための改正健康増進法が成立しました。公共の場での屋内禁煙を初めて罰則付きで義務付けましたが、当初の厚生労働省案からは大幅に後退し、世界的に見ても緩い規制内容となっています。

がんや心臓病の原因となることが明確なたばこ。愛煙家たちの根強い抵抗が続く中、今後の対策はどのように進めていくべきでしょうか。

時代が見える——。オピニオン面にご期待ください。

## 平和企画 戦争を知らないけれど

社会面など 11日(土)から

戦後73年。昭和の記憶を受け継いだ平成も最後の夏を迎えます。戦争の惨禍がさらに遠のこうとしています。体験者の孫やひ孫にあたる「戦争を知らない世代」が迷い、葛藤しながら何かをつかもうとしています。

その先にどんな時代があるのか。さまざまな現場で起きている新しい継承の姿を、同世代の記者の目線で伝え、共に考えていく企画を始めます。

お知らせ：8月10、17両日の「来週の売り物記事はこれ」はお休みします。